

2021年10月期 第3四半期連結決算の概要

2021年9月9日
株式会社トップカルチャー

(1) 総括

営業利益 増益

当社グループの2021年10月期第3四半期連結決算（2020年11月1日～2021年7月31日）は、以下の通りです。

- ・売上高は、**206億13百万円**（前年同期 233億10百万円）
- ・営業利益は、**4億76百万円**（前年同期 4億70百万円）
- ・経常利益は、**4億 3百万円**（前年同期 4億91百万円）
- ・親会社株主に帰属する四半期純損失は、**17億88百万円**（前年同期 四半期純利益 4億28百万円）

(2) 連結業績の要素別分析

営業利益

当第3四半期連結累計期間において、14店舗におけるレンタルサービスからの事業転換に伴う改装経費が嵩んだものの、一方で事業転換の効果による人件費の圧縮に加え、セルフレジの導入や利用促進、店舗業務の効率化、光熱費の削減などが進んだことから、販管費の大幅な削減に繋がり、当第3四半期連結営業利益は、前年同期比1.1%増益となりました。

経常利益

前年は、受取補償金63百万円を営業外収益に計上した一方で、当年は8月に実施した第三者割当増資に係る調達コスト60百万円を支払手数料として営業外費用に計上したことにより、経常利益においては、前年を下回っております。

売上高

前年のコロナ禍におけるマスク・衛生用品の販売拡大や、巣ごもり需要による関連商品の売上伸長による反動、及び市場縮小が加速しているレンタル事業の売上減少の影響、また当第1四半期には、記録的大雪による売上への影響もあり、蔦屋書店事業全体の売上高は前年同期比 88.1%（既存店 90.6%）となりました。しかしながら、主力事業である書籍においては、既存店ベースでコロナ禍前の2019年10月期の同期比において100%を超えているなど、着実にDX化の成果が出てきております。なお、レンタル売上はグループにおける売上全体の7.3%しかなく、今後はコワーキングスペースの増設、メーカーとのコラボレーションによる企画販売等の強化及びリーシング強化などレンタル事業からの転換を進めることにより、売上の増加が見込まれます。

特別損失の計上

2021年7月15日に公表いたしました「事業撤退及び特別損失（事業撤退損）の計上に関するお知らせ」及び「中期経営計画の策定に関するお知らせ」のとおり、レンタル事業の撤退に伴う事業撤退損 21億円を当第3四半期にて計上いたしました。

(3) 今後の展望(中期経営計画)

今期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、2021年7月15日に「業績予想に関するお知らせ」及び「中期経営計画の策定に関するお知らせ」を公表いたしました。

2023年10月期までを転換期間としレンタル事業から新たな成長事業への転換を促進し、蔦屋書店を「楽・学・遊・働」の拠点空間としてリニューアルしてまいります。

以上

本文書に関するお問い合わせ先： 株式会社トップカルチャー 取締役財務部長CFO 吉田 勝一
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話:025-232-0008